

身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすることの指導 ～パペットを使ったお話遊びの事例～			
学部・教科	小学部・国語科	事例コード	2201
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部第3学年2名（重複障がい学級）</li> <li>Aは、手の届く範囲の提示されたものを手で触れるが、ものを見ないで触れることが多くある。補聴器を使用している。教師からの言葉掛けに身振りや振動を併せると、片手を教師に向けてあげて応じることがある。</li> <li>Bは、明暗のはっきりしているものをよく見て追視する様子が見られる。身近な教師の言葉かけに口を大きく開けて応じることがある。</li> </ul>		
単元(題材)名	『りんごがドスン』		
学習指導要領の内容	国語科／小学部1段階 [知識及び技能] ア (イ) [思考力、判断力、表現力等] A 聞くこと・話すことーイ		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすることができる。【[知] ア (イ)】	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすることができる。【[思] Aイ】	言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする。【小1段階目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数10時間 (1) 絵本の読み聞かせを聞く。・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間 (2) パペットを使ったお話遊びをする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・8時間 ・擬音語「ころころ」「どすーん」などに合わせて、動く教材に触れて遊ぶ。		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物のパペットやボール、ポリ袋で作った「りんご」などを使用して絵本の内容に沿ったお話遊びを行った。</li> <li>「りんご」、「うさぎ」などの名前や「ころころころ（りんごが転がる音）」「びよん、びよん（うさぎが跳ぶ音）」などに注目できるように、教材の動きと合わせて言葉掛けをした。</li> <li>はじめは「ころころころ」の言葉を聞いても反応があまり見られなかったが、しだいに「ころころころ」の言葉掛けで教師の動きを期待し、顔を向けたり口を大きく開けたりする様子が見られるようになった。</li> <li>「ころころころ」の言葉掛けとボールの音を感じ、手を伸ばしてボールをつかみ、口元にあてることもあった。</li> </ul>		



動物のパペット



ポリ袋で作った「りんご」